

広島県立尾道北高等学校 第3回学校運営協議会会議録

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

開催日時	令和2年2月17日(月) 15:10~16:50	開催場所	尾道北高等学校 会議室															
出席委員	出席委員人数：6人 委員氏名(役職)： 会長 砂田 勝彦(元尾道北高等学校長) 副会長 林原 慎(福山市立大学教授) 山北 篤(本校同窓会長) 坂本 里美(尾道市 政策企画課長) 瀬戸 務(本校PTA会長) 松井 太(尾道北高等学校長) <本校教職員：20人>																	
会議の概要	<p>(1) 開会行事</p> <p>(2) 協議(進行：主幹教諭)                  議題 学校評議員制度(コミュニティースクール)の在り方について                  ・2つの質問に対して、4つの選択肢から選び、各自がスマホやタブレットを利用して投票。全体の選択状況を学習支援アプリとタブレットを利用して、スクリーンに投影。5名~6名の4つの小グループで協議を実施。                  質問①「学校運営協議会について、どれくらい知っていると思いますか？」                  &lt;B一応は知っている40%, C少しは知っている50%, Dほとんど知らない10%&gt;                  ・前年までの学校評議員・学校関係者評価委員についてが、十分には知られていなかったこともあり、違いがわかりにくい。                  ・小中と違い、高校ではコミュニティースクールつまり地域の学校という特色を出しにくいところがある。                  ・学校評価以外には具体的に何をしているかがわかりにくい面がある。                  ・1年目から結果を求めずに、年ごと改善していけばよい。                  質問②「学校運営協議会で、最も充実させたいのはどれですか？」                  &lt;A 学校関係者評価などの学校運営8%, B 総合的な探求の時間などの教育内容の充実75%, C 学校を核にした地域の活性16%&gt;                  ・本来の趣旨から言えばA。それを踏まえた上でB, Cの充実をはかるべき。                  ・どの役割もとても大切なものだが、現状で取り組みやすい順にすすめよう。                  ・他国でのコミュニティースクールの状況を調べてみるのもよいのではないか。                  ・今日のように、職員と協議会委員で協議を重ねていくことは大事である。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 20px;"> <p>選択肢の数を決めて投票を開始する</p> <p><input type="radio"/> 2択 <input checked="" type="radio"/> 4択</p> <p>投票を始める</p> </div> <div style="margin-right: 20px;"> <p>選択の割合</p> </div> <div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>1人</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>9人</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>2人</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>0人</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>次の投票へ</p> </div> </div> <p>(3) 年度末評価について(司会：副会長)                  ア 評価指標の説明(主幹教諭)                  イ 行動計画に対する自己評価                  ・教務部の定期考査思考力問題【生物・家庭科】について説明                  ・進路指導部(最近5年間の模試成績推移・センター試験結果・出願状況)                  (1年生：順調に伸びている。2年生：下位層は厚いが、伸びてきた。)                  (3年生：センター試験は理系でやや点が伸び悩んだ。出願状況は昨年程度)                  ・教育研究部(めざす尾道北高の学びに基づいた授業アンケートの結果)                  ・生徒指導部(遅刻者数の実態→今年度は非常に少ない。)                  (行事に対する当事者意識やボランティア参加者数は良好)                  ・健康教育部(生徒対象の学校相談体制、教職員対象の支援体制の説明)                  ・総務部(中学校への広報活動の説明、本校の魅力について)</p>			記号	人数	割合	A	1人	8%	B	9人	75%	C	2人	16%	D	0人	0%
記号	人数	割合																
A	1人	8%																
B	9人	75%																
C	2人	16%																
D	0人	0%																

ウ 質疑応答，意見交換

- ・ 1， 2年生について，学力状況を心配していたが，力がついてきているようでよかった。3年生の結果に期待したい。
- ・ 今年度実施した海外修学旅行はどうだったか？  
→生徒ほとんどが肯定的評価をしている。ホームビジットの体験や近代化が進んだシンガポールの状況など，肌で感じた学びを，将来につなげたい。
- ・ 高大接続が変わる。思考力問題の割合の変更などは考えているか。  
→大学入試だけではなく将来に必要な力であるので，現状のまま継続したい。
- ・ 課題解決のためのカリキュラムについて紹介。若者チャレンジ講座を行政がやっている。尾道で何かやりたいと考えている若者をシリーズで話し合いをする講座がある。今は大学生や社会人が来ているが，高校生が来ても面白いのではないかと？尾道を出て行った北高生で尾道に帰ることを考えている人は，東京で移住フェアをやっている。紹介していきたい。  
→1年生で行っている尾道の課題への取組に活用できるのかを検討したい。  
→本校のような進学校では，生徒が都会へ出してしまう。地域で活躍できる子供が必要である。生徒が高校時代に地域を知って，将来帰るきっかけをつくっておくことがこれから必要になる。市役所でも大学卒業後に尾道の企業を紹介できる説明会や，フィールドワークで尾道を知ることが必要になる。
- ・ ICT活用の説明（主幹教諭）  
来年度から生徒が1人1台のタブレットを持つ。学校で管理ソフトを入れて、学習教材の管理を行う。キーボードも同時に購入してタイピングも行なっていきたい。将来的には荷物の軽減や教材配布にも活用していきたい。

エ 学校運営協議会による評価

(4) 閉会行事